



令和6年1月9日
第5号
秦野市柳町 2-5-1
TEL 88-0022
秦野市立西中学校

本年もよろしくお願ひ申し上げます！

今年の干支は「甲辰(きのえたつ)」…春の日差しが平等に降り注ぎ 大きな成長や変化が！

冬休みもあれよあれよという間に終わりを告げ、3学期がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。2024年（令和6年）の幕開けに、2学期の終業式で全校生徒にお話した内容について紹介させていただきます。

今日は1年を締めくくる2学期の終業式にふさわしい、心温まるエピソードを2つ紹介させていただきます。

1つ目は西中学校のホームメイキング部の活動についてです。ホームメイキング部では毎年2回、地域の一人暮らしのお年寄りに向けてメッセージのついた手作りの贈り物を配付しています。以前はクッキーなどのお菓子を焼いて直接家に届けていましたが、ここ数年はコロナ禍もあり、食べ物ではなくアクセサリーや日常の生活で使える品を作り、地域の代表の方に配付をお願いしています。先日、その代表者の方とお話する機会があり、贈り物を手にしたたくさんの方がとても喜び、元気をもたらしているとの話をいただきました。中には届いたアクセサリーを趣味で弾いているギターのヘッドから下げて眺めている方もいるとのことでした。この夏に贈ったお手製のはたきも長さや重さがぴったりで大好評だったそうです。贈り物を手にした方はもちろん、それを届けた地域の方々、またその話を聞かせてもらった私自身もほっこり幸せな気持ちにさせてくれるエピソードでした。



2つ目のお話は、「先日、近所を歩いていて転倒し頭を怪我した際、偶然前を歩いていた西中学校3年生に助けってもらった」という方の奥様が、感謝の気持ちを伝えるために学校を訪ねてきてくれたお話です。そのときお持ちいただいた手紙を一部紹介します。「先週水曜日に、西小学校の先のセブンイレブンの前で転倒したときに、血を拭いてもらったり、救急車を呼ぶなど助けってもらった者です。お陰様で、運ばれた病院で迅速な処置を受けることができ、現在は生活には支障のない状況です。本当にありがとうございました。それにしてもあのような非常事態に、実にてきぱきと適切な処置をしたり、迅速に救急車を呼んだりなどができる冷静さと行動力に本当に感心させられました。多くの大人が、今の若い者は…などと嘆くのが世の中の通例ですが、そんなことは決してないと言うことを強く感じました。これからも若さを謳歌し、中学校生活を大いに楽しんでください。」という内容でした。

ホームメイキングの皆さんも、また4人の3年生も「誰かに感謝してほしい」とか「評価してもらいたい」という気持ちではなく、純粋に優しく温かい思いやりの気持ちが自然と行動に表れているのではないかと思います。

今回、紹介した2つのエピソード以外にも、わかば級の皆さんが地域清掃をしてくれたり、部活でボランティアに参加してくれたり、日常の皆さんの何気ない行動がまわりの人…仲間や家族、近所の人を幸せな気持ちにしたり、元気づけたりしている、そういうことがたくさんあるはずですよ。

2024年も、まわりの人の心を温かくしてあげられる、そんな優しい気持ちで皆さんが生活してくれることを願っています。

第2回進路説明会が開催されました

6月の第1回に続いての開催でしたが、年末のお忙しい時期にもかかわらず、多数ご参加いただきありがとうございました。今回は令和6年度の神奈川県公立高校入学者選抜において導入される『インターネット出願』についての内容でした。今年度より、出願サイトから志願者情報を入力しアカウントを作成することに始まり、志願先の高校の入力、志願変更から受検票の印刷、受検後は合格発表までの流れがインターネット上で行われることとなります。年明けからインターネット出願システムが稼働されていますので、公立学校を受検する予定のご家庭では、今後の学校からの連絡に合わせ、各手続きにご協力ください。なお、令和6年度入学者選抜では、2月に検査を行う募集においてインターネット出願が導入され、3月以降に検査を行う募集については、例年どおり、紙による入学願書での出願となります。詳細情報は神奈川県及び神奈川県教育委員会のHPでも公開されていますのでご家庭でもご確認ください。

正しくおそれる『がん教育』

今や成人の2人に1人が罹患すると言われる『がん』。2年生保健体育の『がんとその予防』の単元で取り扱われる内容ですが、12月1日(金)、神奈川県がん患者団体連合会の『がん経験者外部講師』3名をお招きし、2年生全クラスに特別授業をしていただきました。がんは早期に発見して、適切な治療を施せば、むやみに恐れる病ではなく、だからこそ中学生のうちから正しい知識を身につけてほしいという願いが込められた内容でした。3名の講師は、



今でも定期的に検査をするなど経過観察を継続しているようですが、教室では、知識としてのがんをはじめ、ご自分のがんの経験(発見、発病から治療、そして現在に至るまで)を、がんという大病を経験した人とはにわかに信じ

難い、とても明るく力強い口調で生徒に語りかけてくれました。それぞれのお話の中で、「亡くなるまでの治療ではなく生きるための治療です」「特別視はしないで、でも理解はしてほしい」など、一つひとつのメッセージが心に響く特別授業でした。

気持ちは宇宙へ?西中CS&西公民館事業

12月17日(日)、西中コミュニティ・スクールと西公民館のコラボ企画で、題して「ペットボトルロケット飛ばしに挑戦しよう!」を開催しました。これは、例年西中の科学部が行っているペットボトルロケットの製作と飛行実験を小学生にも体験してもらい、理科への興味を高めてもらおうと、理科授業支援ボランティア団体「ハイエンス神奈川」の皆さまにもご協力をいただき実施したものです。参加してくれた小学生も、はじめは緊張してまわりの様子を見ていましたが、少しずつ本領(?)を発揮してくれるようになり、中学生やハイエンス神奈川の方々とも打ち解けおしゃべりがはずむ中、思い思いのデザインのロケットが完成しました。



当日は、若干の風はあったものの、絶好のロケット発射日和。自らのロケットに自転車の空気入れでひと押しひと押し「魂」を注入し、夢と希望を乗せていざ発射!大量の水を噴出させながら青空に吸い込まれていくロケットの爽快さと、それを見上げる子どもたちの笑顔と歓声がとても印象的でした。軽すぎても重すぎても思った弧を描くことは難しく、ペットボトルロケットの奥の深さに私も感心させられました。1本のペット

ボトルを通じて、小学生と中学生の夢と希望が大きくふくらんだ日曜日でした。

ちなみに、小学生の飛距離部門での最高記録は、『66.5m』でした。あっぱれ!!

